

～ 美しい田園の復活と耕畜連携 ～

千葉県香取市

平地農業地域

平成26年度事例集掲載事例

取組主体：農事組合法人新里営農組合

取組開始時期：平成20年4月

解消面積：7.8ha(平成29年3月時点)

導入作物：WCS用稲

1. 取組のきっかけ・経緯

香取市新里地区の水田は圃場規模の小さい谷津田が多く、耕作条件及び日照条件が悪いため、担い手不足や農業経営者の高齢化とあいまって、荒廃農地が増加し続け、農村環境保全上からも大きな問題となりつつあった。

そこで、地域内農業者と土地改良区が中心となり荒廃農地を解消・再生し、圃場の有効活用を進め、農村環境保全を図った。



2. 取組内容

(1) 活動開始時の取組内容

取組主体は、狭小で耕作条件の悪い谷津田を中心に再生利用に取り組んでいる。

まず、平成20～21年度に県単事業の「耕作放棄地リフレッシュ活用支援事業」を活用して、荒廃農地の解消を実施した。

解消農地は、集落内の畜産農家との耕畜連携によるWCS用稲栽培を実施した。

併せて、この活動の推進を目的とした集落営農組織である「農事組合法人新里営農組合」を平成21年1月に設立した。

(2) 現在の取組内容

WCS用稲を栽培する農地は、農地利用集積円滑化事業や農地中間管理事業を利用し、耕作が困難になった農家から取組主体が積極的に借受けることで、新たな荒廃農地の発生抑制に寄与している。

平成26年以降は、耕作放棄地再生利用緊急対策交付金を活用して、谷津田の荒廃農地の解消を継続しており、現在は新里地区の水田に荒廃した圃場はほぼ無くなり、同様の課題を抱える周辺地域へ活動を拡大している。

3. 今後の課題・予定など

今後は、作付け品種の更なる品質向上に努め、畜産農家へ良質なWCS用稲の供給に重点を置く。

そのためには、圃場はもとより圃場周辺まで丁寧な管理が求められるため、自然な流れで景観整備や地域の荒廃農地の発生抑制及び再発生の防止に繋げていく。

4. 活用した補助事業等

(県)耕作放棄地リフレッシュ活用支援事業

(補助内容： H20～21年度、3.76ha、農地再生利用活動(障害物除去、深耕、整地等))

(国)耕作放棄地再生利用緊急対策交付金

(補助内容： H26～28年度、2.86ha、再生作業)

(補助内容： H26年度、1.61ha、施設等補完整備)



再生前



再生後



WCS用稲作付け